



「いじめのない世界をめざそう」とピンクシャツデーに取り組みました。(体育クラスにて)

# 向き合うこと・ 寄り添うこと



大阪YMCA  
会長  
なかがわよしひろ  
中川 善博

4月は、進学や進級・就職・転勤などが集中する節目の時季として、何かと心忙しい。今までとは違った環境の変化を前に、思いを新たにしたり、心構えの仕切り直しをしたりする好機でもある。心のもち方・生き方の切り替えは、自分を見直し、今まで気付かなかった自己発見にもつながり、自分を顧みる大事な機会といえる。

社会の変化は、目まぐるしい。情報・通信や技術革新・グローバル化などの急速な進展が、国境を越え、社会の構造や仕組み・在り方までをも変えていく。その波は、経済を効率化して生活に利便性をもたらす反面、人々は振り回され、社会に亀裂や偏見を生み、貧困や格差を拡げる。

「格差社会の時代」とも言える21世紀は、人々を分断して相互不信や不安を拡げる一方、国際社会の秩序は揺らぎ、先行きの不透明感が世界を覆っている。こうした時代が抱える課題や問題に、社会は、そして個人はどう立ち向かうべきだろうか。

「向き合う」とか「寄り添う」という言葉をよく耳にし、使ったりもする。言葉のもつ柔らかさや優しさの響きとは逆に、格差の拡がりや人間関係の希薄化・孤立化が深刻さを増し、支えや励ましを必要とする状況が広まっている。関心をもつこと、関わっていくことが求められるが、自分の立ち位置や関わり方の不

安が、踏み出すことをためらわせる。

確かに、「向き合う」には勇気がある。「向き合う」とは、対峙すること。語感には冷たい感じだが、むしろポジティブな良い関係を作ることこそが大切だ。年齢・性別・国籍や言葉の相違・ハンディキャップ等さまざまな違いを超えて、仲間として向き合い、問題をともに担おうとするところから関係がスタートする。同時に、社会が生み出す歪みや矛盾が絡む面をも見逃すことはできない。

YMCAの働きや活動は、それ自体が人に「向き合い」、「寄り添う」ことであり、社会の課題にチャレンジしていく運動である。保育、教育、ウエルネス、国際協力、災害支援、介護など、働きや立場が異なってもボランティアやスタッフとして、それぞれが人と「向き合い」、「寄り添う」働きを通して、社会を変革していく持続的な活動である。

今年度の年間聖句は、「すべての人に仕える者になりなさい。(マルコによる福音書9章35節)」が選ばれている。イエスが、虐げられたものや弱きものに徹底して向き合い、寄り添った姿を聖書で触れるとき、この聖句の深い意味が理解でき、勇気も湧いてくる。

YMCAの使命や活動の原点として、心にしっかり刻みたい。

## ■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神はぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人のびとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

発行：末岡祥弘 編集：大阪YMCA広報室  
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6  
TEL 06-6441-0894 FAX 06-6445-0297  
大阪YMCAのホームページでその他の情報をご覧ください。  
URL: <http://www.wosakaymca.or.jp/>



# 全国YMCAにつながるスタッフ交流

## ～大阪YMCA・横浜YMCAの協働～

2016年度から全国のYMCAは、相互にスタッフ交流や研修を行っています。この取り組みがスタッフの力の向上につながることで、今後のYMCAが行うさまざまなプログラムがより良くなると期待されています。大阪YMCAではこのような全国との繋がりを、これから強めてまいります。

2016年度は大阪YMCAと横浜YMCAから、それぞれ2名のスタッフが相互に派遣されましたので、以下にご報告いたします。

### 横浜北YMCA スタッフ

ふじ さわ ゆき たか  
藤澤 幸隆さん

「大阪も横浜もない。同じYMCAの仲間として、共に歩いていく時代。」期間中最も感銘を受けた言葉です。

同じYMCAの仲間と出会い、大きな刺激を与えていただきました。初めて訪れた大阪はとてもエネルギッシュで、スタッフやリーダー一人ひとりが持つパワーを肌で感じる事ができました。新しい出合いを大切にしながら、これからも神様から与えられた賜物を生かせるよう、YMCAでの働きを続けていきたいと思っております。



大阪YMCAのウェルネス事業部のスタッフと共に(中央が藤澤さん)

### 横浜YMCA YMCA山手台センター スタッフ

みや ざわ じん  
宮澤 仁さん

大阪YMCAでの研修において、全ての出来事が自分自身の新たな刺激となりました。

研修を終えて、改めてお互いのYMCAが協力していくこと、また、そのための意識を持ち続けることの大切さを感じました。これらのことが横浜と大阪だけでなく、全国のYMCAに発展していくことが必要であると思っております。

今回の出会いから生まれた関係を今後も継続し、同じYMCAの仲間として一緒に働きを続けていきたいと思っております。



大阪YMCAサッカークラスのユースボランティアリーダーやスタッフと共にピンクシャツデーを呼びかけました。(後列左端が宮澤さん)

### 大阪YMCA YMCA阿南国際海洋センター 事業長

かん だ ひとし  
菅田 斉さん



横浜YMCAのいずれの事業所でも強く印象を受けたことは、訪問者に対するあいさつの元気よさです。初めて訪れる場所は誰もが緊張するものです。それが、元気のいいあいさつで出迎えられると、緊張がほぐれ気持ちよくなります。キャラクターディベロップメントの推進やメンバーファーストの実践などから横浜YMCAの醸し出す居心地の良さが、訪れるすべての会員に伝わり、活動の広がりにつながっているのだと感じました。

### 大阪YMCA ユーススポーツ事業部 副事業長

いの ぐち たけ し  
猪口 武志さん



横浜での学びは、YMCAの幅広い活動や社会課題に向けての取り組みを多く感じることができたことにあります。待機児童の多い横浜は、保育園をベースに学童保育やウェルネス活動が連携し、子どもたちが安心して安全なYMCAの活動に取り組む姿がありました。大阪とは違う幼児教育文化も知ることができました。多くの横浜YMCAのスタッフや子どもたちと出会い、大阪でのYMCA活動に活かせるパワーをもらうことができました。

# 「いじめのない世界をめざそう」

キャンペーン期間  
1月22日  
3月4日

YMCAピンクシャツデー(PINK SHIRT DAY)2017.2.22

後援：文部科学省



3,560名の皆さまがいじめをなくすためのメッセージを発信し、さらに多くの方がこの運動に参加してくださいました！

大阪YMCAでは、昨年に引き続き、全国YMCAと共に『YMCAピンクシャツデー(PINK SHIRT DAY)2017』を実施いたしました。世界的な運動に連なることでYMCA全体で改めて意識的にいじめ問題に取り組む機会をつくり、社会に対しても「いじめ」撲滅への賛同のお願いとアピールを行いました。

ご参加、ご協力いただいたすべての方に心より感謝申し上げます。いじめのない世界をつくるために今後も共に発信、行動できることを願っています。



## 各拠点・事業所それぞれの取り組みが行われました！



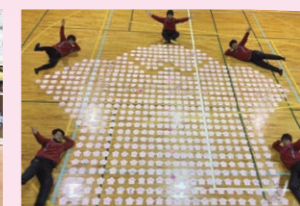
各地域のいろいろなプログラムに参加しているお友だちも、クラスごとにそれぞれの思いを表現しました。



英語幼児園の子どもたち



メッセージを集めてビッグピンクシャツ



こども園のお友だち



バスケットボールのメンバーのお友だち



野外・キャンプのメンバーの皆さん



専門学校の学生・留学生も参加しました。



ユースリーダーの皆さんもピンクシャツデーを力強く推進してくださいました。



ランゲージセンターでは、みんなでいじめについて考えました。



堺市立青少年センター・青少年の家でも大きく推進されました。



表現・コミュニケーション学科の皆さんは、授業でもいじめについて考えました。

## 企業・団体からの協賛 (敬称略)

### ■セレッソ大阪



選手の皆さまがウェブサイトでもアピールし、動画はYahooニュースでも取り上げられました。また、選手たちのメッセージとサインの入ったユニフォームが展示されました。

### ■J-Green堺



ピンクシャツデーのコーナーが設置され、利用者の皆様のメッセージが発信されました。

### ■宇良関(大相撲)



ピンクのまわしで人気上昇中の宇良関が、いじめ反対をアピールしてくださいました。

### ■株式会社ミカサ



ピンク色フットサルボールを提供いただき、サッカーの練習やプログラムでのアピールに使用しました！

### ■ミズノ株式会社



ピンクの手袋を提供いただき、メンバーが使用してアピールしました。

私のYMCA体験

地球市民(グローバルシティズン)になる

大阪YMCA学院日本語学科 スタッフ 高 智子

大阪YMCA学院日本語学科には、約40か国・約300名の留学生が在籍しています。学校の特色は、なんといっても「多様なつながり」にあります。

先日、ピンクシャツデーに関連して、会話クラスで「差別」についてディスカッションしました。「人間には必ず違いがあるから、差別はなくなる」という意見が大多数でした。ある学生が「皆が同じ外見、同じ中身だとしたら、差別はなくなると思う?」と問いかけ、「それでも差別はなくなる」と多くの学生。「じゃあ、どうしたらいい?」「皆同じ人間っていう視点が必要じゃない?」「『違い』を認めることから逃げないで」…議論は「日本語学習」とか「日本語能力」とか、そんなことを超えるレベルに到達しました。

学生たちは、日々、様々な国から来た、様々な年齢の、様々な背景を持ったクラスメートたちとひとつの教室の中で生活しています。このような環境で、多様な人々とつながり、多様な考え方に触れ、日本語以上のものを学んでいくのです。入学当初、日本語の海に投げ出され、不安げだった学生たちが堂々とした姿で卒業していく過程は、立派な「地球市民(グローバルシティズン)」となっていく過程であると思います。そして、それに携われることに私は幸せを感じています。



2017年度 大阪YMCA  
基本方針・年間聖句・年間讃美歌  
が決定しました!

2017年度 基本方針

「みつかる、つながる、よくなる」  
—希望を分かち合える社会に向けて—

2017年度 年間聖句

「すべての人に仕える者になりなさい。」  
(マルコによる福音書 9章35節)

2017年度 年間讃美歌

讃美歌21-210番  
「来る朝ごとに」

2017年1月25日 理事長協議会承認

小学校が再建されました!

～ネパール地震支援報告～

2015年4月のネパール大震災後、大阪YMCAでは皆さまからご支援いただいた募金を活用して、現地の学校の再建支援を行ってきましたが、2月22日、ダーディン(カトマンズから西へ車で5時間程度)の山間にあるセカンダリースクール(児童250人)の校舎再建を終え、開所式が行われました。大阪YMCAからは小川健一郎さん(総主事室部長)が現地の開所式に参席しました。

YMCAの関係者や留学生の皆様をはじめ、多くの方々からの募金を活用して完成に至ることができましたことを心より感謝申し上げますとともに、復興に向けて歩むネパールの人々に1日も早い真の復興が訪れますよう心よりお祈りいたします。



新校舎の前で民族舞踊が披露されました。

大阪YMCA早天祈禱会

■第288回 日 時…2017年4月21日(金)7:30～8:30  
奨 励…千松 清美さん  
(日本聖公会 石橋聖トマス教会 司祭)  
場 所…大阪YMCA会館 10階 チャペル

問合せ 大阪YMCA 本部事務局 総務  
【TEL】06-6441-0894 【E-mail】info@osakaymca.org

■2016年度 クリスマス献金のご報告 敬称略

足立 莉帆 飯沼 眞 石原 和磨 井原 君江 上田 瑠璃 牛嶋 理恵子 奥 大和 金岡 重雄 神谷 尚孝 川勝 圭輔	川俣 茂 小畑 莉子 坂田 啓子 下田 恵 高橋 紗瑛 竹内 明美 田中 章代 寺川 克 外山 岩夫 董 哲薫	中井 正博 中久木 康弘 中本 和子 梨本 康太 西川 勝久 西村 真央 林 純三 林 やえこ 廣島 義夫 藤本 直樹	藤本 紘光 村井 一仁・公紀 山田 空 山田 智優 渡辺 貴子 YMCAかわにし保育園 クリスマス街頭募金
---	--	--	---

ご協力ありがとうございました。

■会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2017年2月度報告・敬称略

【新規会員】 大橋 勇斗 諏訪 冴佳 谷口 文香 戸ノ本 千紗 中井 里佳子 梨子田 次朗	【継続会員】 大野 真由美 大野 由佳 大東 義史 小笠原 純 木綿 奈津子 小寺 規久子 鷺山 将一	桜井 和之 城野 成美 鈴木 絹子 塚 理 八田 りさ子 堀田 教史 真弓 華奈 宮田 眞麻	室谷 明日香 森本 武 吉村 啓子 【継続賛助会員】 株式会社イマイチ 株式会社藤木工務店
---	--	---	--